

恐竜博2016~ THE DINOSAUR EXPO ~

国立科学博物館にて開催



陸の王者

全長12m

有名な肉食恐竜
ティラノサウルス



水中の覇者

全長15m

恐竜界で話題を集めている
スピノサウルス



編集・発行
大宮西高校新聞部
H28.3.22
No. 1015

3月8日(火)から上野の国立科学博物館にて開催されている「恐竜博2016~ THE DINOSAUR EXPO ~」は春休み中も開かれているので、太古の神秘を感じたい人は是非行ってみてはどうだろうか。

見ごたえのある展示物がそ
れやういいため貴重な恐竜の
赤ちゃんの化石や、スピノ
サウルスの実物化石など、

どれも貴重な標本が多
く、迫力のあ
るCGやわか
りやすい解説
などを通して、
最新の恐竜研
究の成果が発
表されている。
なかでも目
玉となっている
のは、「スピ
ノサウルス」
と「ティラノ
サウルス」の全身復元骨格
で、全長10m以上の恐竜が
2体並ぶ光景はとて迫力
あるものとなっている。

国立科学博物館で、3月
8日から6月12日にかけて
行われる『恐竜博2016』
は、「起源」「植物食」「飛翔」
「水中進出」「赤ちゃん」「恒
温」「鳴き声」の7つのキー
ワードを軸に開かれたもの
で、世界中の博物館や研究
機関からの出展がある。



全長1.2m

最古のどても小さい恐竜
エオドロマエウス



全長6m

頭部の大穴から「空洞」
を意味する名を持つカサモサウルス

「カサモサウルス」の骨格標
本や、滑空恐竜、
太古の植物の化
石、恐竜の羽毛
が入った琥珀な
どが展示されて
おり、興味にあ
る人は是非一度
6月12日までに
国立科学博物館
に足を運んでほ
しい。

また、特別イベントも多
く開催されており、化石を
削り出す化石クリーニング
の実演や、閉館後の暗くなっ
た会場を懐中電灯で照らし
ながら探検することのでき
る「ナイトミュージアム」、
同じく閉館後の会場を使っ
ての謎解きイベント「謎解
きミュージアム」など、恐
竜についてもっと深く知る
ことができるイベントが用
意されている。この他にも

ろっている。
国立科学博物館で、3月
8日から6月12日にかけて
行われる『恐竜博2016』
は、「起源」「植物食」「飛翔」
「水中進出」「赤ちゃん」「恒
温」「鳴き声」の7つのキー
ワードを軸に開かれたもの
で、世界中の博物館や研究
機関からの出展がある。



全長3.8m

マウソニアと呼ばれる
巨魚の骨格標本

今回のプレス内覧会で
展示物の説明をしてくれ
た、国立科学博物館の地
学研究部生命進化史研究
グループ長の真鍋真さん
は「恐竜は元々爬虫類な
ので、四足歩行でのろの
ろ歩くイメージがあると
思います。ですが、ある
時期に二足歩行になり、
早く遠くへ移動できるよ
うになったので、より多
く繁栄できるようになっ
たのです。恐竜の一部は
鳥類になって、今でも進
化を続けています」と恐
竜について詳しく解説し
てくれた。

国立科学博物館で、3月
8日から6月12日にかけて
行われる『恐竜博2016』
は、「起源」「植物食」「飛翔」
「水中進出」「赤ちゃん」「恒
温」「鳴き声」の7つのキー
ワードを軸に開かれたもの
で、世界中の博物館や研究
機関からの出展がある。



国立科学博物館の
真鍋 真さん

展示の目玉 2大肉食恐竜について

水 スピノサウルス

スピノサウルスは北アフ
リカで発見された大型獣脚
類の肉食恐竜で、「棘のあ
るトカゲ」という言葉から
来ている。推定全長は約15
mで、実はティラノサウル
スよりも大きい。生息して
いた時期は9700万年前
の白亜紀の中頃だと考えら
れている。

1915年にドイツのエ
ルンスト・ストローマーが
発表したのが、この恐竜の
始まりだ。しかし、第二次
世界大戦によって実物標本
が焼失してしまい、その後、

今回、博物館に展示さ
れているのは「スコッ
ティ」という愛称で呼ば
れている。ティラノサウ
ルスの全身骨格のなかで
は最も新しい個体で、約
13mの全長がある最大級
のティラノサウルスで、
日本で公開されるのは初
めてとなる。

ティラノサウルスは、
映画「ジュラシック・パー
ク」などで数多く取り上
げられていている有名な恐
竜なので、今回展示され
ている全身骨格は恐竜に
詳しくない人でも十分に
楽しめるだろう。

陸 ティラノサウルス

ティラノサウルスといえ
ば、一度は聞いたことのある
有名な獣脚類の肉食恐竜
だ。その名前の由来は「暴
君トカゲ」という言葉から
きている。白亜紀最末期の
北アメリカに生息していた
ので、スピノサウルスと遭
遇することは無かったと考
えられている。

最初に化石が発見された
のは1892年で、アメリカ
のエドワード・ドリン
カー・コープが脊椎の一部
を発見したことから始まっ
た。

海外の恐竜博士が語る 恐竜の魅力と凄さ

今回のプレス内覧会では、展示物の前で恐竜の展示に協力した海外の博士が詳しく説明をしてくれた。

ミラノ市立自然史博物館
クリスティアーノ・



ダル・サツソ博士



私は、中世のドラゴンのような生き物であるスピノサウルスやティラノサウルスなどの恐竜が、実際に生きていたことが自分の目で見て分かることに恐竜への魅力を感じます。

また、恐竜と同じく我々人間も今は繁栄し続けていますが、最後には恐竜のように絶滅するかもしれない、という将来的な運命も思い出させてくれることもあるので、恐竜の化石などは非常に興味深いです。

学生のみならず、恐竜や考古学だけに限らず、自分が興味を持ったことをそのまま真っ直ぐ努力し続けて、追求して行ってほしいです。

恐竜という怪獣みたいな生き物が生きていた痕跡を調べるのは非常に興味深いです。見た目は怪獣みたいでもちゃんとした動物なので、我々のいる世界について考える上でも恐竜の残した化石などは非常に重要で、興味深いものです。

今回展示されているパラサウロロフスと呼ばれる恐竜の標本は、発掘から論文を書くところまで高校生が関わっており、誰でも科学に貢献できることが分かる重要な標本なので、是非見て欲しいです。

化石クリーニング実演者

カナダのアルバータ大学
クライヴ・コイ氏



慎重に化石を削り出すクライヴ氏

(実際の作業が見学できる)

今私がクリーニングしている化石を、完全に取れ出すには2年くらいかかります。骨や化石自体がとても柔らかい上に、覆っている岩石は硬いので、削っている間に化石を傷つける可能性が非常に高く、そのあたりの力の入れ具合が難しいところです。



レイモンド・M・アルフ

古生物学博物館
アンドリュー・A・ファーク博士

土の中にあるため、どんな形の骨がどんな方向で入っているのか分からないので、失敗することもあります。破損してしまった化石や骨を修復することも私の大切な仕事になっています。

恐竜博小話

～新聞部の小さな奇跡と武井壮さん～

今回のプレス内覧会に参加するにあたって、我々新聞部はちょっとした奇跡を起こしている。

今回のプレス内覧会には二つの全国大会のどちらかに入賞した、という条件の多くの高校が申し込みをした。博物館側は「2月24日の来場者数を各校が予想し、実際の来場者数に近かった二校を招待する」という選抜方法をとった。そして直感を信じて、適当な数を書いて博物館に送ったところ、見事当選した。

武井さんはプレス内覧会より一足早く博物館内を見て回ったそう。恐竜の化石や骨を見て開会式の挨拶で、「スピノサウルスや

ティラノサウルスはとても大きくて、恐竜のスケールの大きさを直接感じることができました」と話した。

外部取材すると有名の人によく遭遇するが、次はどんな有名人に出会うことができるのか。楽しみで部活にも身が入る。



恐竜博公式サポーターの武井壮さん



全長7.8m

頭部の突起が特徴的なスピノサウルスの全身骨格

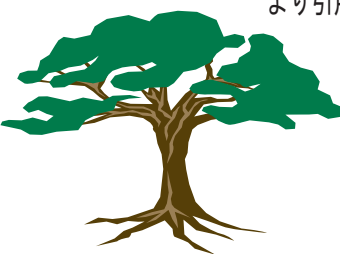
パラサウロロフスの全身復元画



恐竜博2016のカタログより引用 © 菊谷 詩子



1.5mの長さがあるパラサウロロフスの頭骨



全長4.6m カマラサウルス

会場へのアクセス

